



鹽竈十番

発行所 〒985-8510 塩竈市一森山一番一号
 志波彦神社 社務所
 電話 〇二二(三六七)一六一(代)
 FAX 〇二二(三六五)五五三〇
<http://www.shiogamajinja.jp/>

七月十日を中心とした当鹽竈神社の例祭では、直近の日曜日に流鏝馬が神事として行われる。その淵源は古く、鎌倉時代に奥州留守職であった伊沢家景が、神慮(神のみこころ)を慰め奉る為、当社に馬三頭を奉獻して流鏝馬を行った事が始まりと言われている。射手に選ばれた家臣たちは、馬術と弓術に励む事で武芸全般の向上に努め、家臣全体の士気や精神力、更には、信仰心を高める神事と伝えられてきた。射手の装いは、綾蘭笠をかぶり、水干を垂領(たろび)に着て左袖を脱ぎ、射籠手(いごて)を付け、鹿の毛皮で作った行膝(むかばき)を背には箆(ひら)を付け、祓いを受けてから神事に臨む。三人の射手が三つの的を次々と射抜くその姿は、勇壮且つ敬虔な武士を思わせる。的中時の音は、力強く清々しく、何とも言い難いものであり、会場となる馬場は、盛大な拍手と笑顔に包まれる。的中した矢的は除災招福の瑞祥とされてきた。

「かしこしや
 志波彦しほがまならびたち
 御稜威(みいづつ)かがやく一森の山」

当社に伝わる神楽歌「一森の舞」は、御両社の大神様の廣大無辺なる御稜威(みいづつ)、すなわち御威光を称える歌である。御稜威を拝戴するうえで重要なのは祭祀の厳修であり、例祭はその最たるもの。

今年も例祭を、流鏝馬神事を、県内外から多くの崇敬者が参列され、厳粛かつ盛大に斎行される。御稜威を頂いて、災禍なき平穏な世の中となるよう切に願うばかりである。



鹽竈神社例祭 七月十日

来る七月十日(水)、鹽竈神社例祭が斎行されます。

古くは陸奥国司が神事を担い、江戸時代には仙台藩主伊達家が大神主として祭祀を司りました。

午前十時より斎行され、祭典中に特殊神事「御出幣式」が執り行われます。

御出幣式は、別宮・左宮・右宮の各御本殿内に奉安されている御神幣を権宮司以下所役が奉戴し、楼門まで進み、まず南面して左右左の順に振り奉り、次に北面して同様の所作を行います。これは国家の安泰と国民



御出幣式



書道展

の平和を祈るもので、かつては「御朝参神事」とも称し、筆頭禰宜家が相伝する秘事でした。

また七月十四日(日)には流鏝馬神事が執り行われます。

この神事は、鎌倉時代に留守職・伊沢家景が三頭の馬を献じて流鏝馬を行い、部下の士気を高めたのが始まりと伝えられます。

例祭にあわせ、神賑行事として、市内小学校児童による書道展が絵馬殿に催されます。

宮城県無形民俗文化財 藻塩焼神事

七月四日・五日・六日

鹽竈神社例祭に先立ち、市内本町に鎮座する末社・御釜神社では御祭神・塩土老翁ゆかりの特殊神事「藻塩焼神事」が斎行されます。

「藻刈神事」七月四日(木) 七ヶ浜町花洲浜沖に神事船を出し、ホンダワラと呼ばれる海藻を採取する神事です。



藻刈神事

「水替神事」七月五日(金) 松島湾釜ヶ淵より満潮時の海水を汲み、神釜の古い

水を海に返し、入れ替える神事です。午前十時に御釜神社において奉告祭を斎行し、午後二時に出船、海上で神事を斎行します。



水替神事

「藻塩焼神事」七月六日(土) 藻刈神事で採取したホンダワラを用いて、塩分濃度の高い塩水(鹹水)を作り、これを煮つめて塩を作ります。古代の製塩方法の一端を

伝える貴重な神事として、昭和五十四年に宮城県無形民俗文化財に指定されました。



藻塩焼神事

神事で調製された塩は、御釜神社例祭・鹽竈神社例祭で御神前に御供えされるほか、御釜神社例祭参列者にお頒ちします。



調製された塩

塩竈みなど祭

七月十五日 海の日

七月十五日(月・海の日) ”やしろと魚のまち”塩竈を挙げての祭典「みなど祭」が斎行されます。

志波彦神社・鹽竈神社御両社の大神輿が市内を巡幸ののち、御座船「龍鳳丸」「鳳凰丸」に奉安され、日本三景松島湾を舞台に、大小百隻からなる供奉船団を従えて海上を渡御します。

前日に開催される花火大会や陸上パレードなど、まちは華やかに賑わいます。



御座船「龍鳳丸」

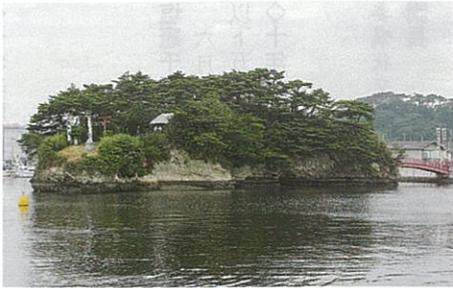
曲木神社例祭

八月一日

八月一日(木)、市内新浜町籬島に鎮座する末社、曲木神社の例祭が斎行されます。

籬島は、古くから歌枕の名所として名高く、多くの和歌に詠まれてきました。

また、国の名勝「おくのほそ道の風景地」の一つに指定されている塩竈の景勝地です。



籬島

御神田御田植祭

五月十一日、御神田において御田植祭が斎行されました。

当日は晴天のもと、各団体・一般奉仕者約一五〇名が参列し、泥に足をとられながら御田植を行いました。

これから四カ月間、農耕と殖産の守護神・志波彦大神の御加護のもと、秋の収穫を待つこととなります。



大鳥居塗替工事実施

志波彦神社が岩切より遷祀されて、今年で一五〇年を迎えました。

これを記念して大鳥居の塗替工事が実施されることとなり、五月九日に施業者参列のもと、清祓を行いました。



大鳥居は昭和十五年に竣工し、幾度か補修工事が行われましたが、表面劣化による色斑等が著しいため、この佳節に実施となりました。



氏子崇敬会

春季大祭斎行

五月十二日、氏子崇敬会春季大祭が斎行され、桑原会長以下二〇二名の会員が参列。祭典後、新任の大世話人へ委嘱状の交付、また永年継続表彰が行われました。(敬称略)

委嘱状交付

大世話人

(南部)

錦・花立

佐藤 正義

令和六年度継続表彰

◇四十年表彰

(東部)

中の島

塩釜カス俵

◇三十年表彰

(北部)

北浜四の一

志賀 重信

◇十年表彰

(西部)

西町

相原 茂

(南部)

南町一

菅原 宏和

(北部)

特別区

岩井 敏彦

北浜二

及川 勝博

講社だより

各地の講社祭が斎行されました。永年継続講員の表彰や新講長へ委嘱状が交付されましたので、ご紹介いたします。(敬称略)

仙台千人講祭

四月二十一日、菊地講長以下二十名が参列しました。

◆四十年表彰

佐藤 善彦

◆三十年表彰

島津 義典

◆十年表彰

伊藤 正康

釜石講祈願祭

四月二十八日、津田講長以下十八名が参列しました。

◆七十年表彰

罇沢トモ子

◆五十年表彰

東 洋子

◆四十年表彰

藤原久美子

工藤精肉店

◆三十年表彰

中田 幸子

◆二十年表彰

小野寺喜代子

◆十年表彰

田代 弘美
刈屋 竹子
中平 剛

塩竈千人講祭

六月二十三日、松戸講長以下五十名が参列しました。

◆十年表彰

鈴木 新也
鈴木 隆子
委嘱状交付
講長 松戸 信三

敬神婦人講だより

春季境内清掃奉仕

五月三十日、総勢二十五名の講員により、鹽竈神社左右宮玉垣内の清掃奉仕が行われ、和やかに取り組まれました。

大年寺墓参

六月二十日、講員二十四名参加のもと、大年寺山伊達家墓所への墓参が実施されました。

当日は、塩竈に縁の深い第四代藩主綱村公の命日にあたり、綱村公並びに歴代藩主へ追悼の献花を行いました。

養成所通信

入所式

四月八日、神職養成所入所式が執り行われました。今年の新入生は一名。入所式では宣誓文を読み上げ、二年間の養成所生活が始まりました。

○新入生

(普通課程Ⅱ類一年)
小関 達也(山形県)



日本吟道奉賛会 吟詠吟舞奉納奉告祭

六月二日、日本吟道奉賛会による第六十二回吟詠吟舞奉納奉告祭が斎行されました。

伊藤清洲会長以下県内外より百名の会員が参列し、



国歌・鹽竈神社奉納詩を拝殿で奉唱しました。祭典後、社務所大講堂で詩吟を吟じ、日頃の稽古の成果を披露しました。

鹽竈神社奉納詩

前川清洲

靈験炳乎如日輪

靈験炳乎として日輪の如し

劫餘來拜感慨新

劫餘來り拜して感慨新なり

松聲似説無邊徳

松声説くが如し無辺の徳

萬古千秋此神仰

萬古千秋此の神を仰ぐ

北辰一刀流 演武奉納

五月四日、北辰一刀流の演武の奉納が行われました。北辰一刀流は、江戸時代後期に宮城出身の劍豪千葉周作が創始した著名な古流劍術の流派です。千葉周作は幼少期に斗笠稲荷神社(大崎市古川鎮座)の近くで育ち、劍術を学びました。江戸で開いた道場は三大道場に数えられ、多くの門弟を育てました。

当日は、第七代宗家権名市衛成胤氏をはじめ十五名が参拝。舞殿において演武が奉納され、日頃の鍛錬の成果を奉納しました。



奉納演武

国家安泰 五穀豊穰 家内安全

祭事暦 (七月から九月まで)

- 毎月 朔日 祭 曲木神社月次祭
- 一日 朔日 祭 御釜神社月次祭
- 六日 御釜神社月次祭 鹽竈神社月次祭
- 十日 鹽竈神社月次祭 志波彦神社月次祭
- 二十九日 志波彦神社月次祭
- 七月 藻刈神事
- 四日 藻刈神事 水替神事
- 五日 水替神事 藻塩焼神事
- 六日 藻塩焼神事 御釜神社例祭
- 七日 御釜神社例祭 牛石藤鞭社例祭
- 十日 牛石藤鞭社例祭 鹽竈神社例祭
- 十四日 鹽竈神社例祭 流鏑馬神事
- 十五日 流鏑馬神事 みなと祭

安産祈願 海上安足 大漁満足

- 八月 一日 曲木神社例祭
- 九月 二十九日 志波彦神社遷座記念祭 並に氏子崇敬会秋季大祭

参拝記録

- 三月 一日 長野県・埴原神社元総代百瀬藤男氏他 六名
- 十二日 奈良県・薬師寺 大谷徹獎執事長他 十七名
- 十四日 福島県・大沼郡神社総代会 福島県神社庁大沼郡支部 二十五名
- 二十四日 さがら会 十名
- 四月 四日 東北嶽東会 代表世話人郡山宗典氏他 六名
- 六日 栃木県・佐野ロータリークラブ 十三名
- 二十日 小西美術工藝社
- 五月 十八日 一般社団法人 Miss S A K E 二十名
- 二十日 奈良県・大神神社職員研修旅行 三十四名
- 二十六日 茨城県・筑波山神社氏子総代会 十五名
- 二十七日 奈良県・大神神社職員研修旅行 三十九名

文芸欄

花月夜地酒めぐりのマイグラス
 轉りにかけあひの飯遠蔵王
 散り急ぐ花の心をたれか知る
 電話番の忙しさもよし風は初夏
 初掘りの筈先づは刺身とす
 粽解くきりなき仕事放り出し
 たくましき母の二の腕汗の玉
 苗箱を漬くや堰なる用水路
 島々をめぐる船波御波平ら
 杜鵑花咲く錆て海恋ふ捕鯨砲

- 佐藤 悦子
- 菅原 和子
- 齋藤 豊子
- 佐藤 光江
- 鈴木 ゆう子
- 今田 須美子
- 上田 由美子
- 大野 みよ子
- 今野 紀美子
- 及川 源作

東北式内社顕彰会 第八回巡拝会実施

当神社内に本部を置き延喜式内社の顕彰・啓蒙を目的に活動する東北式内社顕彰会は、去る三月二十六日より二十七日の日程で第八回巡拝会を実施しました。東北の式内社宮司を中心とした七名の参加者は、岩手県紫波町鎮座の志賀理和気神社(田村寛仁宮司)と志和稲荷神社(鱒沢知美宮司)を正式参拝。大沢温泉で一泊し、花巻市内の施設を見学するなど交流を深めました。



銅板奉納者芳名

多くの方々より銅板の奉納をいただきました。

- 三月 愛知県 小林 裕和 他九七名
- 四月 佐賀県 渡邊 和子 他一六一名
- 五月 埼玉県 亀田 昭代 他一四名 (敬称略)

人事異動

- 新任 四月一日付 近野 秀和
- 出仕 五月一日付 徳永明日香
- 巫女 菊池 滯 勝 遥菜

赤毛

季節の変わり目、体調管理に気をつけてお過ごしください。(慶)